

■展覧会案内

特別展 海に生きた歴史～復興発掘調査が語る一万年の海との共生～

会期:平成28年1月14日(木)～3月6日(日) 会場:特別展示室

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた三陸沿岸。人々の暮らしを立て直すため、数多くの土木事業が必要となり、それに付随して埋蔵文化財調査の推進が急務とされてきました。復興の先達としておこなわれる遺跡発掘調査は、土地の来歴を探り、地域の先人の歴史を明らかにする作業であり、新たな営みを再開する礎として必要不可欠な事業です。この埋蔵文化財発掘調査自体を「復興発掘調査」と呼称することも不適切ではないと考えます。

岩手県の海岸線総延長は南北711kmにも及び、「復興発掘調査」の件数、調査面積も莫大なものとなっています。岩手県内の埋蔵文化財担当職員と全国各地から派遣の支援職員、そして地域の方々の努力により調査が日々進められています。そして、「復興発掘調査」の成果により、海とともに生きた地域の歴史が日々、明らかになってきているのです。

本展示は、復興発掘調査の状況と成果をもとに、海に生きた岩手県沿岸部の先人の歴史を紹介し、これからも海とともに生きる地域の営みの「礎」を呈示することを目的とするものです。

展示構成

展示構成は、5章からなっています。

1 海に生きた一万年の歴史

考古学の基本資料となる土器、陶磁器の変遷を示すことで、海に生きた1万年の歴史を概観します。実際に復興発掘調査で出土した土器、陶磁器を展示し、調査がおこなわれた遺跡の年代が多岐にわたることも示します。

2 海とともに生きた生活

- 縄文時代～弥生時代 -

縄文時代早期から縄文時代晩期、そし

て弥生時代遺跡の復興発掘調査の成果を展示します。

「沿岸部最初期の定住集落」外屋敷ⅩⅨ遺跡(久慈市・縄文時代早期)、「南北交流の接点」力持遺跡(普代村・縄文時代前期～中期)、「大槌湾に面した標高0m集落」赤浜Ⅱ遺跡(大槌町・縄文時代中期～後期)、「山田湾徒歩1分標高2m集落」浜川目沢田Ⅰ遺跡(山田町・縄文時代中期～晩期)、「山の上の弥生集落」浜岩泉Ⅲ遺跡(田野畑村・弥生時代)他を展示します。

またトピックとして、「貝塚」、「信仰」、「製塩」を取り上げます。トピックでは、復興発掘調査に限定せず、三陸の歴史を特色付ける考古資料も展示します。



山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡 写真:(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

3 海を介した歴史の展開—古代～近代—

古墳時代から近代に至る遺跡の復興発掘調査の成果を展示します。

「昆布貢納の閉村か」津軽石大森遺跡(宮古市・7世紀～平安時代)、「海の平泉」川原遺跡(釜石市・12世紀)、「海の平泉北へ」田鎖車堂前遺跡(宮古市・12世紀)、「太平洋と日本海の陶器の結節」伏津館(野田村・中世)、「三陸船運の拠点大槌」町方遺跡(大槌町・近世)他を展示します。トピックとして、「製鉄」、「戦争関連」を展示します。「戦争関連」では、復興発掘調査(浜川目沢田Ⅰ遺跡)で出土した山田湾空襲の際の米軍の機銃弾も展

示します。



野田村伏津館跡出土陶磁器 写真:(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

4 東日本大震災津波と埋蔵文化財

東日本震災の津波による埋蔵文化財と関連施設の被害を紹介します。そして震災直後におこなわれた県内埋蔵文化財担当職員を中心とした埋蔵文化財のレスキュー活動も紹介します。合わせて被災した考古遺物や関連資料も展示します。

5 復興発掘調査に携わった人々

全国から岩手県内での復興発掘調査に支援いただいた派遣職員の方々の声を紹介いたします。支援派遣職員の方々の声が直接届くように、パネル原稿の記入を各々の方々に直接お願いしました。沖縄県から北海道にいたる全国の方々が体感した復興発掘調査、三陸の海を示します。

本展示は単に「復興発掘調査」の内容やその苦勞を示すのではなく「復興発掘調査」によって明らかになった、海とともに生きた過去一万年の三陸沿岸の歴史を示すことを目指します。

(学芸第一課 主任専門学芸員 羽柴直人)